

## がん看護専門看護師の活動報告

深田 陽子

日本医科大学付属病院看護部

### Oncology Certified Nurse Specialist's Activity Report

Yoko Fukada

Department of Nursing Service, Nippon Medical School Hospital

(日本医科大学医学会雑誌 2013; 9: 31-32)

#### 1. がん看護専門看護師とは

専門看護師とは、公益社団法人看護協会専門看護師認定審査に合格し、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族および集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識および技術を深めた者をいいます。資格を得るまでには、看護系大学大学院修士課程修了ならびに、実務研修が通算5年以上あり、うち3年間以上は専門看護分野の実務研修を必要としています。専門看護師は実践、相談、教育、調整、倫理、研究の6つの役割を果たすことにより、保健医療福祉や看護学の発展に貢献することを目指しています。

2007年4月のがん対策基本法が施行され、6月には「がん対策推進基本計画」が閣議で策定されました。がん医療の臨床現場においては、化学療法・放射線治療の推進、早期からの緩和ケアの提供、情報提供・相談支援の実施、地域連携の整備に向けた取り組みが求められています。このような現状の中で、がん看護専門看護師は、がんの病態生理、がんに関する理論、がん看護に関する看護援助の知識をもとに、がんの予防・早期発見から診断・治療(化学療法、放射線治療、幹細胞移植など)における看護、がんリハビリテーション看護、緩和ケア、ターミナルケア、遺族ケアなど広

範囲にわたって活動することが求められています。2012年4月現在327名のがん看護専門看護師が全国で活躍しています。

#### 2. 院内における役割

主な活動としては、がん相談支援センターでの看護相談業務、緩和ケアチームでのコンサルテーション活動、院内外でのがん看護教育、病棟での看護実践および研究活動の支援などがあります。

がん相談支援センターにおける看護師が行う主な相談活動としては、相談者であるがん患者様やご家族に対して、がん医療に関する専門的な知識・技術の提供、教育的・情緒的な支援、必要とされる療養環境の調整などがあります。また、院内外の医療従事者に対するコンサルテーション活動もあります。よくある相談内容には、“告知から治療が開始されるまでの漠然とした不安な気持ち”“退院後の生活について思うようにいかないことへの不安”“家族間でのコミュニケーション”などがあります。相談担当者として、限られた時間で相談者の語りを傾聴し、その中から相談者の真の悩みを見抜いていくことが重要であると日々意識しながら、対応しています。

教育活動としては、がん看護に関連した認定看護師やリエゾン精神看護専門看護師と連携し、院内の看護

**Key words:** oncology, certified nurse specialist, palliative care, consultation support

Correspondence to Yoko Fukada, Department of Nursing Service, Nippon Medical School Hospital, 1-1-5 Sendagi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8603, Japan

E-mail: Kayano-y@nms.ac.jp

Journal Website (<http://www.nms.ac.jp/jmanms/>)

師や近隣の訪問看護師の方それぞれを対象に、がん患者が持つ特徴的な身体症状や精神症状、化学療法や放射線治療、緩和ケア、コミュニケーションなどに関して、実践的な知識の提供を目的に研修会を企画・運営しています。病棟単位においては、臨床現場で困っている事柄をタイムリーに取り上げ、関連する看護理論や概念を活用しながら事例を展開して、問題解決の糸口を見つけるための勉強会を実施しています。

緩和ケアチームでの活動としては、医師、薬剤師、緩和ケア認定看護師とともに連携して病棟ラウンドを行っています。具体的には全人的な視点でのアセスメントや看護展開・オピオイドの評価・家族支援などについて、病棟看護師とともに考える機会を積極的に持つことを実践しています。また、介入したケースが亡くなられた際には、病棟看護師の意向を確認しながら、緩和ケアチームメンバー（ケースによっては在宅調整できた訪問看護師の方も含む）と病棟看護師とでデスクケースカンファレンスを開催し、ケアの振り返りの場を共有することを行っています。

### 3. これからの目標

当院は地域がん診療連携拠点病院として平成20年4月に認定を受けました。その役割として果たすべき課題は多々あります。その中でも、現在の相談支援活動や教育活動を通して、臨床現場に根付いた地道な活

動を丁寧に実践していきたいと考えています。そして、活動を横断的な活動ができる立場にある看護師として、がん相談支援活動のさらなる充実と、がん患者に関して退院調整支援部門との連携、および地域の医療機関との連携体制の整備にも、今後は力を注ぎたいと考えています。近年のがん医療においては、短期入院での治療、外来化学療法や放射線治療を受ける患者数の増加、外来診療での日常的な病状の告知などがあります。この現状にあるがん患者・家族へ早期に対応することが活動の目的です。そのためにも、病棟だけでなく外来診療部門や地域の医療機関に対しても、相談支援活動に関して理解を深めてもらうことや、連携体制の強化への取り組みが重要であると考えています。また、がん患者の退院調整に関しては、病状の進行状況によってタイミングを逃すことなくタイムリーに支援していくことが重要となるため、病棟における看護展開の段階から、早期から支援していけるように取り組んでいきたいと考えています。

### 文 献

1. 大西和子：がん看護専門看護師（めざせスペシャリスト！ステップアップのための最新資格ガイド）。月刊ナーシング 2008; 28: 118-123.

（受付：2012年6月27日）

（受理：2012年8月3日）